

Stop! えほロス campaign ～恵方巻きのフードロスをなくしたい～

(学生による活動グループ Sustainable Food Project)

えほロス防止に取り組む小売業者（スーパーやコンビニ）の方に理解を示す声や応援する声、えほロスを望まない声など、市民の皆さんの「声」を社会に広める。

□ 背景

2016年頃から毎年恵方巻きの大量廃棄が報道されるようになり、最近は季節行事の度にフードロスが話題になっている。2019年、農林水産省が小売業者の団体に需要に見合った量を販売するよう求めた。また、需要に見合った量を販売するには、消費者の欠品等への理解も必要である。**消費者の声を集めるキャンペーンを通して、市民が食品ロスを考えるきっかけになればと考えた。**

□ アクション

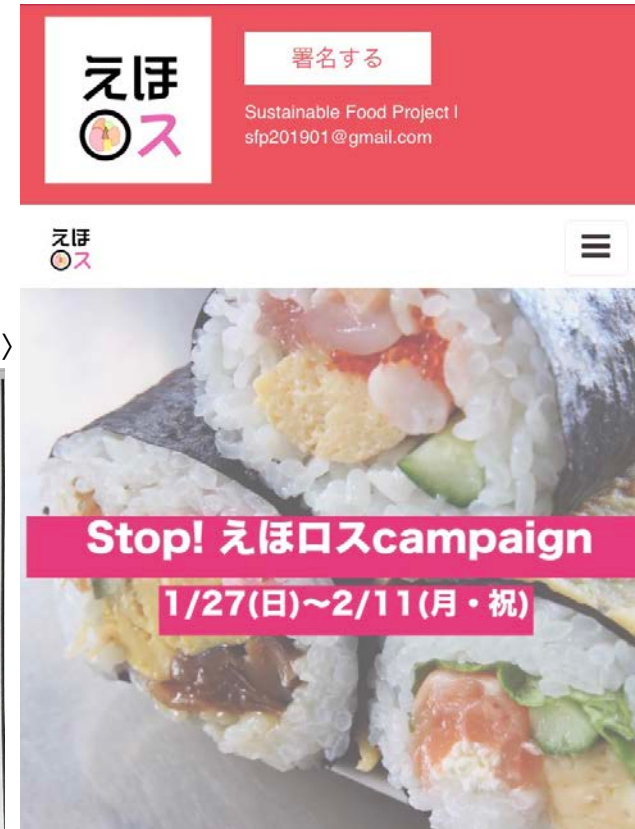
恵方巻きの大量廃棄や食品ロス全般に関する消費者の声と署名をインターネットで集めた。**期間は2019/1/27(日)～2019/2/11(月)**
→集めた署名と声は、小売業者の団体と関係省庁へ提出する予定。

□ 反響

朝日新聞、日経新聞にも取り上げられ、**署名は630件集まった。**



〈2019年2月2日 朝日新聞(夕刊)〉



Sustainable Food Project

- mail sfp201901@gmail.com
- Twitter @sfp2019
- Facebook

<https://www.facebook.com/sfp2019/>

Stop! えほロス campaignサイトの発信内容

「えほロス」なんて、もうやめにしよう

MISSION

「えほロス(恵方巻きの食品ロス)」 をなくす

本キャンペーンの目的は、恵方巻きの食品ロスという社会課題を一つの入り口として、みなさまに普段の食生活で生じる食品ロスを意識するきっかけにいただくことです。恵方巻きを販売する小売業者及びその関係団体を責めたり、恵方巻きという風習そのものを否定したりすることではありません。その点をご理解いただいた上でキャンペーンに参加していただきますよう、よろしくお願いいたします。

解決のためには、消費者と小売業者の協力が必要です

ヤマダストアーのように需要に見合った販売をするためには、小売業者だけでなく消費者一人ひとりの姿勢も重要になります。私たち消費者が、お店に行けばいつでも欲しいものが手に入る状態を当たり前だと思っていれば、小売業者もなかなかそういった販売の仕方に踏みきることができません。

捨てたくないと思っている小売業のみなさん、捨てるほど仕入れるくらいなら欠品してても構わないと思っている消費者のみなさんは、たくさんいらっしゃると思います。そういった**みなさんの声を社会に広めていくことが、えほロス、そして食品ロスをなくしていく第一歩だと考えます。**

キャンペーンに参加するには？

Stop! えほロスcampaignには、下記の3つの方法で参加できます

・下記「署名する」ボタンより、署名する/フォームに回答する
※署名/フォーム回答は1分程度で終わる短いものです。

・みなさんの身近なスーパー・コンビニで、えほロス防止に取り組んでいる事例を拡散する
※当キャンペーン運営あてにメールもしくはDMを送るか、ご自身で「#えほロス」をつけて投稿してください。

・当キャンペーンのTwitter/Facebookアカウントのフォロー、投稿の拡散をする
※拡散の際は「#えほロス」をつけていただくようお願いします。

署名は、630件集まりました。

署名する

この度、「えほロス（恵方巻き食品ロス）」をなくすことを目的に、Stop! えほロスcampaignを始めます。

私は食べることが大好きです。家族や友人と話しながら食べる時間が一番幸せです。中でも、土用の丑の日、クリスマス、お正月などの行事のご飯は特別感があって好きでした。でも、最近季節行事のたびに目立つのが、大量の食品が廃棄されている現実です。**楽しみだった行事の日は、食品ロスを象徴する悲しい日へと変わってしまっています。**たくさんの食べ物がぐちゃぐちゃになっている写真や映像は、何度見てもすごくすごく悲しいです。魚も鶏も豚も牛も、捨てられるために死んだわけじゃないはず。食べ物を捨てることは、自然、動物、それを作った人たちに対して、**恥ずかしいことだ**と思います。

今回のキャンペーンでは、えほロスの防止に取り組む小売業の方に理解を示す声や応援する声、えほロスを望まない声など、みなさんの声を集め、小売業の関係団体に届けたいと考えています。

みなさんの声を、小売業者や社会に届けませんか？

このキャンペーンが、えほロス、そして他の季節行事でのロス、そして日常的な食品ロスをなくしていく第一歩となりますように。

Stop! えほロス campaign 代表より

□ 「署名する/フォームに回答する」で頂いた声の紹介

飲食店でのアルバイト経験者の声

- ・飲食店でバイトをしていると食品を大量に廃棄することもあり、自分がフードロスに荷担してしまっていることに、いつも罪悪感を感じています。
- ・捨てるのは私たちです。3年続けていますが、決して慣れることはありません。慣れてはいけないと思います。生産者さん、調理士さん、飢餓で苦しんでいる人たちのことを思うと胸が苦しみます。
- ・前にバイトしていたパン屋さん。売り切れなかったパンをすごい捨てていたのが悲しくて（ほかにも理由あったけど）辞めてしまった。そういうの気になってる若い人って本当はたくさんいると思う。

農業に関わる人の声

- ・農業の現場に近いところで働いています。廃棄するために作っているものは1つありません。余ったら畑に戻し土に帰ります。余った恵方巻きは何に帰るのでしょうか。
- ・農業が好きでお米や野菜を育てているので、自分たちが一生懸命手をかけて育てたものが簡単に捨てられてしまうのは悲しいです。

小売業者に向けた声

- ・販売店が恵方巻きを余るほど用意するのは欠品によるクレームを避けるためでもあるということを知りました。「ばっちり予約したから当日は買わないよ！」とか「そもそも食べないよ」「無くても怒らないよ」とか思ってる人もいるってことを知ってもらって、販売店の人が安心してくれたらいいなあと思います。
- ・食品廃棄、ロスに対する姿勢の方が、利便性の追求より共感を得られると思います。また、それ以上に流通、小売業のエキスパートとして、世界の為になることを価値として提示いただきたいです。

命との向き合い方に関する声

- ・動植物の命は有限であるという当たり前のことを忘れている人が多いように感じます。
- ・私たちのために失ってくれた命が無駄になるのは非常に心が痛みますね。なんのために「いただきます」と言うのか。もう一度食に対して考え直さないといけないんだと実感させられました。

□ 「署名する/フォームに回答する」で頂いた声の紹介

購入を悩む人の声

- ・商品を購入すれば廃棄が減らせますが、その分売上が上がり、次回からの供給が増え、また廃棄が生まれてしまいます。かといって、目の前の商品を購入しない選択をしても、そこでもまた廃棄が生まれてしまい、堂々巡りだなと感じています。

消費者から変わっていきこうという声

- ・潤沢な種類の中から食べたいものを選ぶ、という消費者の行動が、小売業界やレストランの大量仕入れにつながっているのだとしたら(逆も然り)、私たち消費者は自分たちの行動を改めるべき。
- ・欠品があっても理解します。
- ・自分も一消費者として、安全志向が高くなるのは十分に理解できますが、「過剰な安全志向」に多くの消費者は自分で気付いていないまま食品ロスを生んでいる気がします。意識改革とともに正しい情報も求められているなと感じています。
- ・フードロスをなくす取組を積極的に行う勇氣のある会社及びそれを選ぶ消費者が増えることを切に願います。

恵方巻き文化を残しつつ変えていこうという声

- ・日本の文化である恵方巻きが、環境にも良く文化としても残る形で生まれ変わると良いなあとと思っています。

日常的な食品ロスにも目を向けていきこうという声

- ・恵方巻きに限らず、食品ロス全般に問題意識をもっています。
- ・恵方巻きなどイベントの食品廃棄だけではなく日常からたくさんの食品が廃棄されている現状を、消費者一人一人にも届くようにしたい！

こんな日本にしていこうという声

- ・食料廃棄がGDPを上げることにつながる社会構造に違和感を覚えています。みんなが幸せならそれでいい。消費社会に走る日本をなんとかしたいという思いでいっぱいです。
- ・近江商人の教えの「三方良し」に習い、売り手（自社）、買い手（お客さん）、そして世間（社会）においても配慮できるようなそういう経営をする企業を目指してほしいし、そういう企業を消費者も称賛するような日本になってほしいと心から願っています。
- ・何かを作るときは捨てる時のことを考える、そんな日本でありますように。